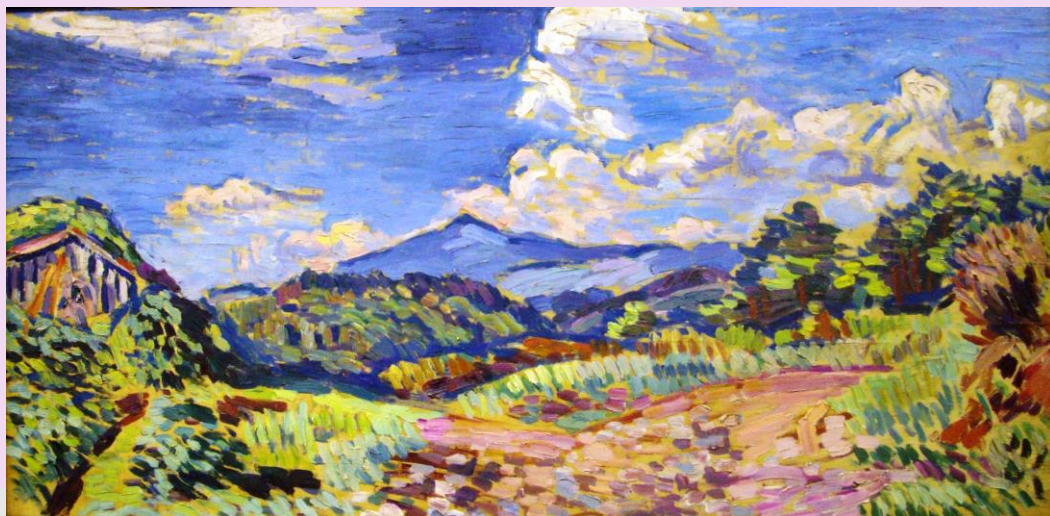




生誕120年 齊藤二男展

盛岡市コレクション展2024

盛岡市が所蔵している美術作品の鑑賞機会として、毎年開催している「盛岡市コレクション展」。今年度は、2024年に生誕120年を迎えた盛岡ゆかりの洋画家・^{さいとう ふたお}齊藤二男を取り上げ、岩山や姫神山など、齊藤の描いた盛岡の風景ほかを紹介します。

2025年 2月22日(土)～3月9日(日)

※月曜休館（2/24は開館）

午前10時～午後5時

（最終入場は午後4時30分）

盛岡市民文化ホール 展示ホール **入場無料**

盛岡市盛岡駅西通2-9-1 マリオス4階

<https://www.mfca.jp/shiminbunka/>

主催：盛岡市、(公財)盛岡市文化振興事業団

お問い合わせ：盛岡市民文化ホール 019-621-5100

盛岡市(文化国際課) 019-613-8465



盛岡市民文化ホール
公式X(旧Twitter)はこちら⇒
@morioka_shibun



盛岡市芸術文化ポータル
公式X(旧Twitter)はこちら⇒
@ArtMori_morioka



2月28日(金)・3月7日(金) は「ナイトミュージアム」開催！

開館時間を延長し、午後7時30分まで開館します（最終入場は午後7時まで）。

お仕事帰りや電車・バス待ちのお時間などにぜひご鑑賞ください。



生誕120年 齊藤二男 展

盛岡市が所蔵する美術コレクションから、さまざまなテーマを設けながら作品を構成し、市民の鑑賞機会として毎年開催している「盛岡市コレクション展」。令和6年度は、「生誕120年 齊藤二男展」と題して、盛岡ゆかりの洋画家・齊藤二男の作品に焦点をあてて展覧します。

1904年、広島県出身の齊藤は、父の仕事の関係で東京に移り住み、東京美術学校（現・東京藝術大学美術学部）を卒業後、1934年、盛岡市出身の女性と結婚。戦中・戦後と盛岡へ通い、美術学校の同期で岩手県出身の橋本八百二との交流もありました。本展では盛岡で描いた岩山風景や姫神山、グループ展に出品した作品など42点を中心に紹介します。



馬小屋



建物



自画像



ばら（伊万里の花瓶）

【齊藤二男 略歴】

- 1904年 1月1日、広島県呉市に生まれる。エンジニアの父の齊藤孝吉の仕事の関係で室蘭製鉄、明電舎と移ったため、室蘭、東京と移り住む。
- 1918年 4月、東京・日本中学校（現・学校法人日本学園）に入学。
1923年3月、卒業。
- 1920年 4月、東京美術学校西洋画科（現・東京藝術大学美術学部）に入学。岡田三郎助の指導を受ける。1925年3月、卒業。同年の西洋画科卒業生には刑部人、久保守、福井謙三、盛岡市出身の橋本八百二らがいた。
- 1933年 母校の東京・日本中学校の図工科教師として就職、美術教育振興に努める。
- 1934年 盛岡市紺屋町で旅館を営む齊藤力助とタニの三女マサと結婚。
- 1941年 5月、鈴木千久馬、倉員辰雄、金澤重治らにより創元会が結成され、第1回創元会展開催。出品、会員推挙。以降、出品を続ける。
- 1944年 8月、太平洋戦争が激化し、妻子を妻の故郷である盛岡市に疎開させる。休暇を利用して盛岡へ通うようになる。
- 1945～48年 終戦後も家族のいる盛岡へ通い、岩山や姫神山などの盛岡風景を描く。この頃、橋本八百二が時折斎藤旅館を訪ねる。
- 1949年 盛岡市より家族を連れて、東京・世田谷の自宅に戻る。
- 1964年 東京・学校法人日本学園の美術教諭を退職。画業に専念。
- 1960年代後半 体の不調が続き、遠出はしなかったが、信州や箱根、柿生や鶴川などへ写生旅行へ行く。体の不調に加え、足を痛めて歩行が困難となり、自宅の庭の梅を題材とする。
- 1976年 2月、東京にて入院加療中に肺炎を併発し死去。享年72歳。
4月、第35回創元会展に遺作《杏花》が展示される。

来場者にポストカードプレゼント！（お一人様につき1枚）

会期中、ご鑑賞の皆様に盛岡市所蔵の美術作品によるポストカードをプレゼントします。ぜひお誘いあわせの上ご来場ください。

